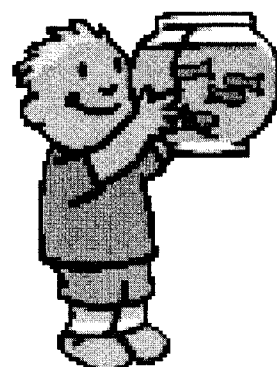


## 第II章

# 子どもを知るところからスタート ～実態把握(アセスメント)～



## この章では…

この章では、実態把握(アセスメント)のプロセスでのポイント、その際に使用可能なツールなどについてみていきます。

### ● 実態把握(アセスメント)でのポイント



このプロセスでのポイントをみていきましょう。

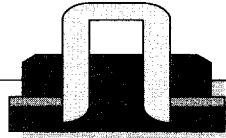
#### 実態把握(アセスメント)でのポイント

- ①子どもがつかまづいている領域を発見する
- ②子どもがつかまづいている課題を発見する
- ③子どもがどこまで習得しているかを把握する
- ④子どもの強い力を発見する
- ⑤課題を遂行している時の子どもの様子について把握する
- ⑥子どもがつかまづいている要因を推定する
- ⑦どの部分で支援を必要としているかを把握する
- ⑧子ども本人のニーズを把握する
- ⑨家族のニーズを把握する

## ● このプロセスでとらえること ～「えがお君の場合」～

ここでは、先のポイントにしたがって次のような内容をおさえます。

例)



5年生のえがお君は、「書く」「推論する」領域につまずきがある。(→ポイント①)

「書く」では、漢字を正確に書くことや作文が難しく、「推論する」では図形の問題が困難である。(→ポイント②)

2年生までの漢字は習得している。作文も気持ちの表現などは豊かだが、限られた量の文になりがちである。図形については、概念を表すことばの理解はできているが、形の構成・分解、模写が難しい。(→ポイント③)

えがお君は、ことばの理解や表現は得意である。(→ポイント④)

学習に対して意欲はあるのだが、自分の思うようにはかどらないと「どうせできない」と言って、あきらめてしまうことも多い。不器用さもある。(→ポイント⑤)

このつまずきの背景には「目と手を協応させる力」「(漢字を)正しく認知したり、記憶したりする力」「(形を)捉えたり、頭の中で操作する力」の弱さがあるかもしれない。(→ポイント⑥)

こうみると、「運動面の問題」「形の認知や記憶、操作」に関して、支援を必要としているようだ。(ポイント⑦)

本人も漢字が書けないこと、短い作文しか書けないことを気にしている。(→ポイント⑧)

保護者も支援の方法がわからないこと、自信を失ってきていることに対し危惧している。(→ポイント⑨)

## ● 子どものつまずきを把握するツール

子どもがつまずいている課題をどのような視点で把握したらよいか、頭を悩ませるところです。そこで、子どもがつまずいている課題や、子どもがどこまで習得しているかを把握する際の視点となるツールを紹介しましょう。



この「学習領域スキル別つまずきチェックリスト」(資料参照)は、2段階式になっています。まず、大きなチェック項目(数字のチェック項目)についてつまずきがみられるか否かをチェックし、つまずきがみられる場合のみ、その下に構成されている小さなチェック項目(アルファベットのチェック項目)でつまずきの内容をさらに詳しく把握するようになっています。つまずきがみられる場合には○印等でチェックをしていきます。

ここでチェックされた項目を、目標として取り上げていくという方法もあります。

ここでは、えがお君の場合を例にみてみましょう。

－ えがお君の「学習領域スキル別チェックリスト」の結果(一部抜粋)－

< IV. 書く >			
チェック			
○	12. 文字を書くのに困難がみられる	チェック	
↳	a. 平仮名の書き間違いがある (例: 鏡文字「く」→「>」を書く、形態的に似ている「い」と「り」を間違う)		
	b. 片仮名の書き間違いがある (例: 鏡文字「テ」→「ㄨ」を書く、形態的に似ている「シ」と「ツ」を間違う)		
	c. 習った漢字が書けない →付表「学年別漢字配当表」参照	○	
	d. 漢字の書き間違いがある (例: 細かい部分を書き間違える… 「赤」→「赤」 へんとつくりを反対に書く… 「粉」→「粉」 意味的に関連のある漢字と書き誤る… 「入」→「出」)	○	
	e. 書くときの姿勢や、鉛筆などの用具の使い方がぎこちない	○	
	f. 字の形や大きさがうまくとれなかったり、まっすぐに書けないなど読みにくい字を書く	○	
	g. 独特の筆順で書く		
	h. 文字を写すのが難しい (例:黒板に書いてあることを写すのが遅い)	○	
	13. 単語を正確に表すことに困難がみられる		
↳	a. 文字の順序を書き間違えたり (例:とおまわり→とおわり、混同したり (例:にぐるま→にじまる) して書く		
	b. 文字を抜かしたり (例:しかい→しか)、余分な文字を加えて (例:せんせい→せんせいい) 書く		
	c. 促音(例:がっこう→がこう)や、拗音(例:せんしゅう→せんしょう)、長音(例:おうさま→おおさま)などの特殊音節を含む単語を間違えて書く		
○	14. 文を書く上での基本的な構造の理解に困難がみられる		
↳	a. 主語、述語の文が作れない、順序がおかしいなど文の組み立てが理解できていない		
	b. 「は」、「を」、「へ」など、助詞を適切に使うことができない		
	c. 。、「」など符号を正しく使うことができない	○	
○	15. 文章を書くのに困難がみられる	チェック 習得学年	
↳	a. 思いのままに書き、筋道の通った文章を書くことができない		1
	b. 事実の羅列のみで内容的に乏しい		1
	c. 限られた量や、決まったパターンの文章しか書かない	○	1
	d. 修飾と被修飾との関係に注意して書くことができない		3
	e. 指示語や接続語の役割と使い方に注意して書くことができない	○	3

< II. 量と測定 >		
チェック		
	9. 時刻や時間の概念の理解に困難がみられる	チェック 習得学年
→	a. 昨日、今日、明日、早い(前)、遅い(後)というような時間の概念を表すことばの意味が理解できない	1
	b. 時計を見て時刻が読めない	2
	c. 日、週、月、年などの理解ができない	2
	d. 時間(時、分、秒)の計算ができない	3
	10. 量を比べたり、測ったりすることに困難がみられる	
→	a. 長さや重さといった量がどのようなものか理解できない	1
	b. 長さや重さなどの量を比較することができない (直接/間接比較/任意単位による測定を含む)	1
	c. ものさしなどの計器のもつはたらきや目盛りの構造を理解することができない	2
	d. 量を表す基本単位(例:cm <sup>(2)</sup> 、g <sup>(3)</sup> )について理解できない	2
	e. 単位の換算(例:15cm $\leftrightarrow$ 150mm)ができない	2
	f. 面積についての単位や、測定の意味が理解できない	4
	g. 面積を求めることができない	4
	h. 角の大きさというものを理解したり、それを測定することができない	4
	i. 体積についての単位や、測定の意味を理解することができない	6
	j. 体積を求めることができない	6
	k. 速さの意味や、表し方について理解できない	6
	l. 速さを求めることができない	6
< III. 図形 >		
チェック		
○	11. 図形を理解したり、構成したりすることに困難がみられる	チェック 習得学年
→	a. 前後、左右、上下など、位置や空間の概念を表すことばの意味が理解できない	1
	b. 形を構成したり、分解したり <sup>(2)</sup> することができない (例:  は  がいくつでできているかといった問題を解くことができない)	○ 1
	c. 図形を模写することができない	○ 1
	d. 図形の弁別ができない(例:似たような図形のグループの中から、同一の図形を探し出すことができない)	○ 3
	e. 図形を構成する要素(例:辺、頂点 <sup>(3)</sup> 、直径、半径 <sup>(4)</sup> )や構成要素間関係が理解できない	3
	f. 三角定規やコンパスなどの器具を用いて図形を描き出すことができない	○ 4
	g. 立方体や直方体といった立体図形について理解できない(例:側面がいくつあるかがわからない)	6
	h. 立方体や直方体といった立体図形の見取り図や立面図などを描くことができない	6

## ● 子どものつまずきの要因を探る

子どもがつまずいている課題の背景要因を探っていくことは、支援をどのようにするかを考え、ていく上で非常に重要になってきます。しかし、その背景要因を断定することは難しいでしょう。したがって、ここでは、「推定」でかまいません。「もしかしたら、このつまずきの背景には、〇〇な要因があるかもしれない」といった仮説をもつことが大切です。そのような仮説でまずは初めてみて、子どもとのやりとりを進めていく中で、その都度修正していけばよいのです。

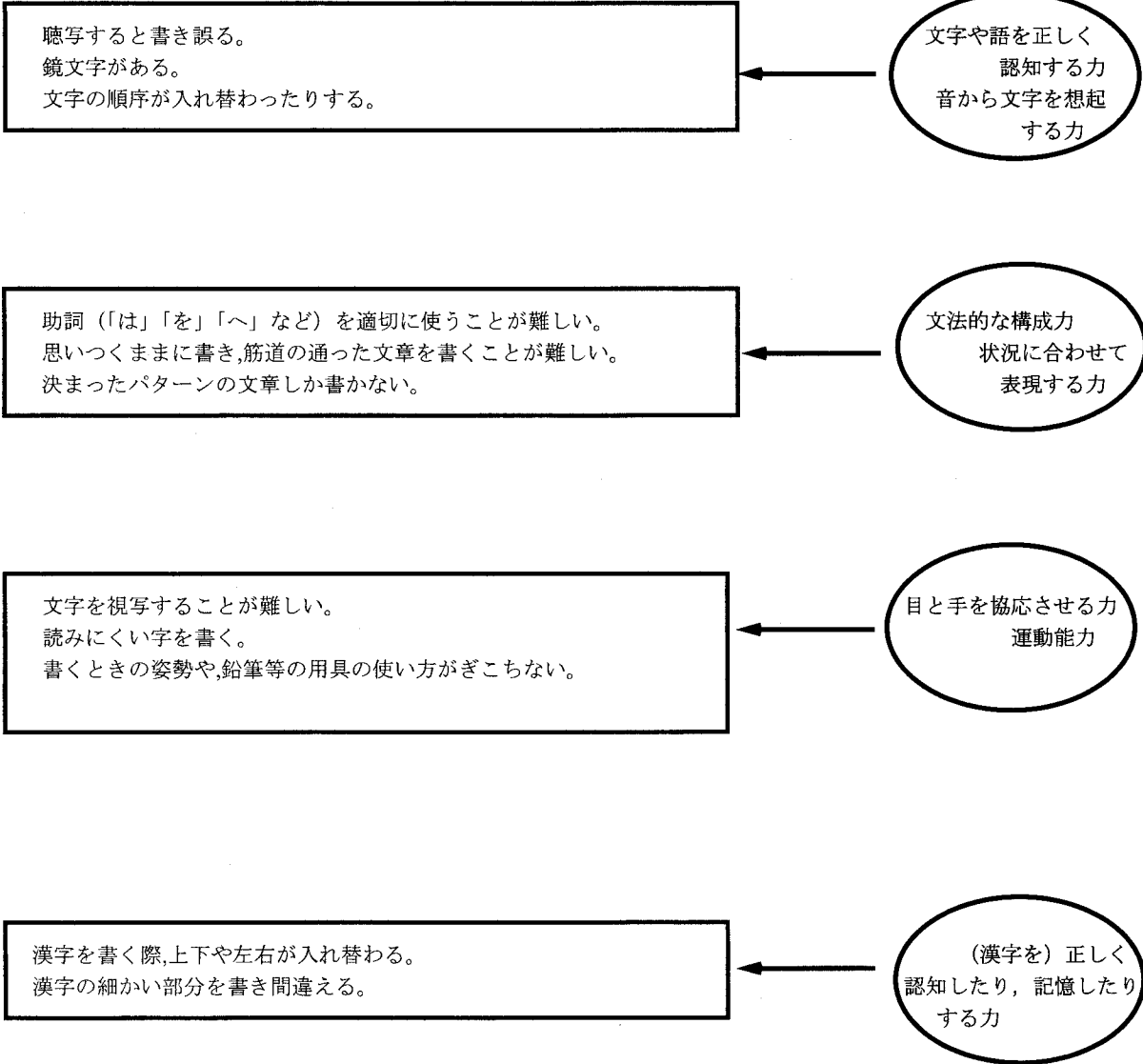
そこで、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」といった領域ごとに、つまずきとその背後にあると思われる代表的なつまずき要因についてみていきます(資料参照)。ただし、つまずきに1つの要因のみが関わっていることはむしろ少なく、実際には複数の要因が相互に作用し合っていることが考えられます。

ここでは、えがお君がつまずきを示した「書く」「推論する」についてのつまずき要因についてみてみましょう。

## IV. 書 く

<つまずきの例>

<要因>





## VI. 推論する

<つまずきの例>

<要因>

